

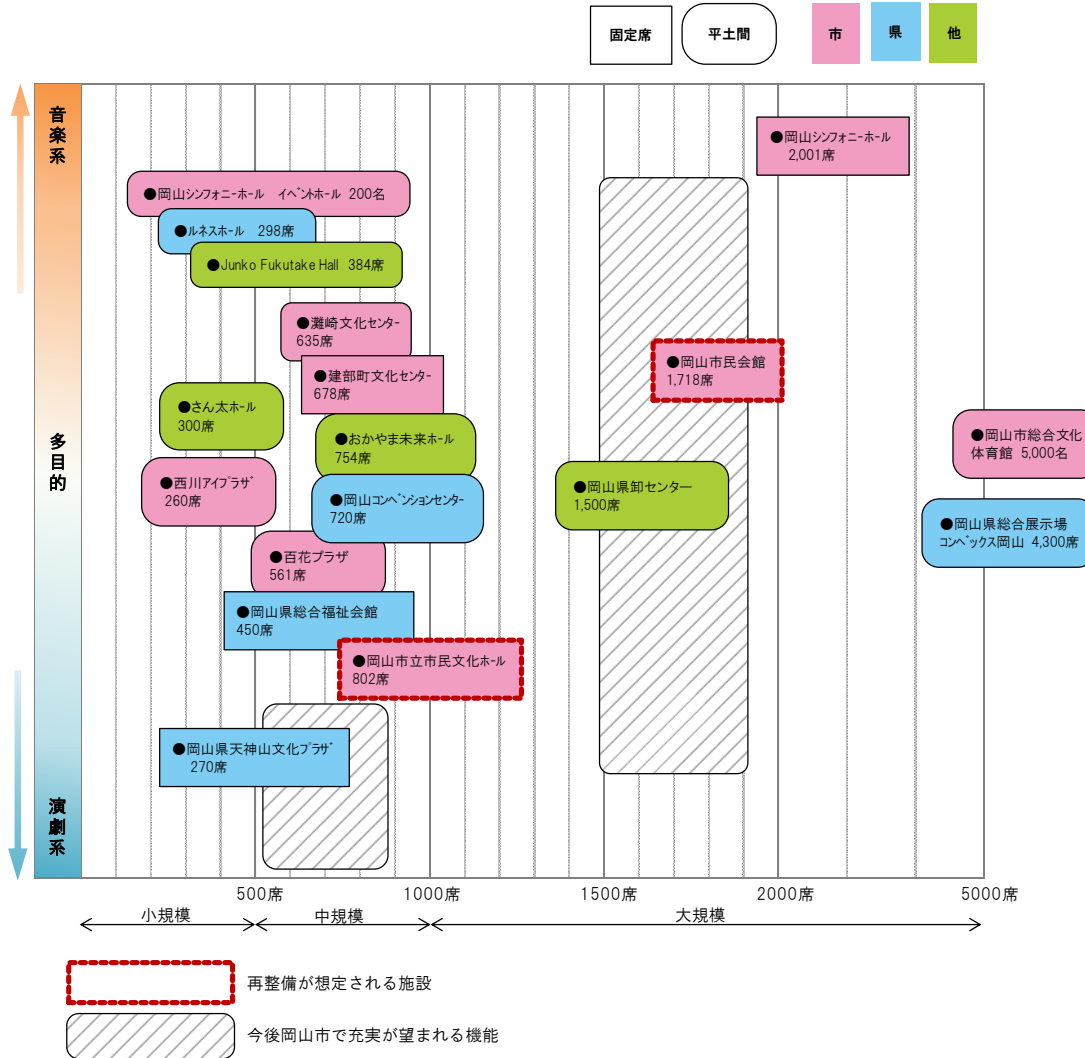
新しい文化芸術施設の整備に関する基本構想(概要)

1 上位計画との関係 (P1~4)

(1) 岡山市の計画の整理(P2)
 「岡山市文化芸術振興ビジョン」
 「岡山に暮らす人々が地域への愛着をもちながら、いきいきと暮らせる豊かな文化都市をめざす。」

2 岡山市の文化環境の現状分析等 (P5~15)

■市内の文化ホール等施設の目的別整備状況(P7)



■望まれる方向性(P15)

【ハード（施設機能面）】
 整備予定地周辺の賑わいを創出する機能の充実／岡山市が備えているポテンシャル（交通網、交通圏内人口など）を活かす仕掛けとしての施設整備／創造支援機能の整備による創造活動の環境整備

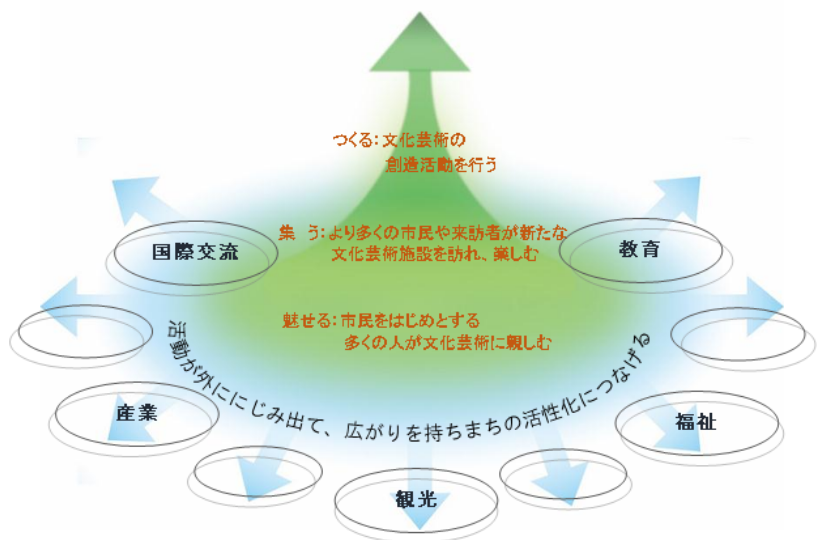
【ソフト（文化活動面）】
 文化事業の制作機能など創造活動に必須な機能をもつ専門的機関の整備と、文化芸術施設のトータルマネジメント／今後の少子高齢化を考慮し、文化芸術活動の裾野を広げる活動のさらなる展開／今後の活動を担う中核的人材の育成／創造活動に対する支援

3 新しい文化芸術施設の基本コンセプト (P16~17)

■魅せる
 市民が優れた文化芸術に触れ、親しむ機会をさらに広げていきます。
 ● プロの公演が成り立つ一定の座席を持つホール
 ● 近代的な設備・機能を備える施設、70万市民の文化芸術の拠点施設
 ● ユニバーサルデザインを重視（主催者や利用者が使いやすい環境・設備）

■集う
 多くの市民や岡山市を訪れた方々誰もが訪れることのできる施設とし、文化芸術を通し岡山市の魅力を楽しむことのできる施設とします。
 ● さまざまな文化芸術団体の拠点となり、世代や分野を越えた交流
 ● 活動成果の発表や各種展示等を通じた、市民の創作活動への支援や、発信
 ● 誰もがいつでも気軽に立ち寄り、憩える空間

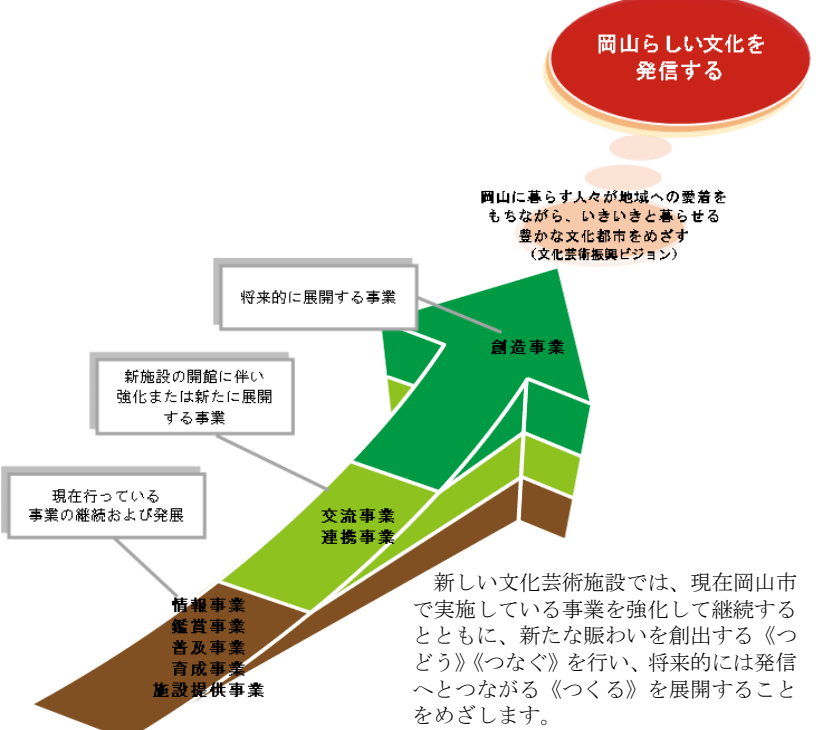
■つくる
 岡山の新しい文化芸術を創造し、発信します。
 ● 表現する者、観る者、支援する者への展示等を含めた積極的な情報発信
 ● 各種講座の開設や体験を通じた人材育成
 ● 舞台等の制作や本番に向けた練習



4 事業の考え方 (P18~19)

各事業は互いに連携させて展開し、長期的視点に立ち、その時々が必要かつ求められる事業に重心を置いた展開とします。

魅せる	鑑賞事業《みせる》 優れた文化芸術公演／実演家・団体等との協働 など
	普及事業《したしむ》 アウトリーチ事業／参加体験型事業 など
	交流事業《つどう》 気軽に集う機会の提供／文化フェスティバルの開催 など
集う	情報事業・施設提供事業《ささえる》 文化芸術に関するセンター的役割／市内外の文化芸術情報の収集と提供／文化芸術情報のアーカイブ化／市民の文化芸術活動への場の提供／文化芸術活動への指導・助言・協力 など
	創造事業《つくる》 岡山市独自の文化芸術作品の創造／将来の文化芸術活動を担う人材育成／類似施設と連携した作品づくり など
つくる	育成事業《はぐくむ》 市民の文化芸術活動の支援／文化関連の専門家の育成／次世代の育成 など
	連携事業、継承事業《つなぐ》 市内文化施設との連携事業／教育、福祉など他分野との連携事業／近隣地域との連携事業／地域の伝統文化の継承事業 など



5 管理運営の考え方 (P20~24)

コンセプトである「魅せる」「集う」「つくる」を実現できる管理運営を目指します。

(1) 管理運営の基本方針(P20)

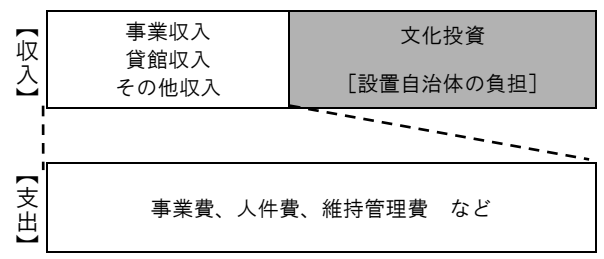
- 専門性の確保
- 柔軟な管理運営
- 経営的視点をもった管理運営
- 評価の仕組みの構築

(2) 運営方式・組織の考え方(P21~23)

設置自治体が直接運営を行う直営と、指定管理者制度の双方のメリット・デメリットを精査し、適切な方向性を定めます。

(3) 管理運営経費の考え方(P24)

文化事業を継続的に展開するために、一定の経費の支出（文化投資）を行っていく必要があります。ただし、財政状況等を鑑み、維持管理コストを考慮した設備の検討、事業における助成金や協賛金など外部資金の獲得、効率的な施設運営など市の財政的な負担を軽減していくことを目指します。



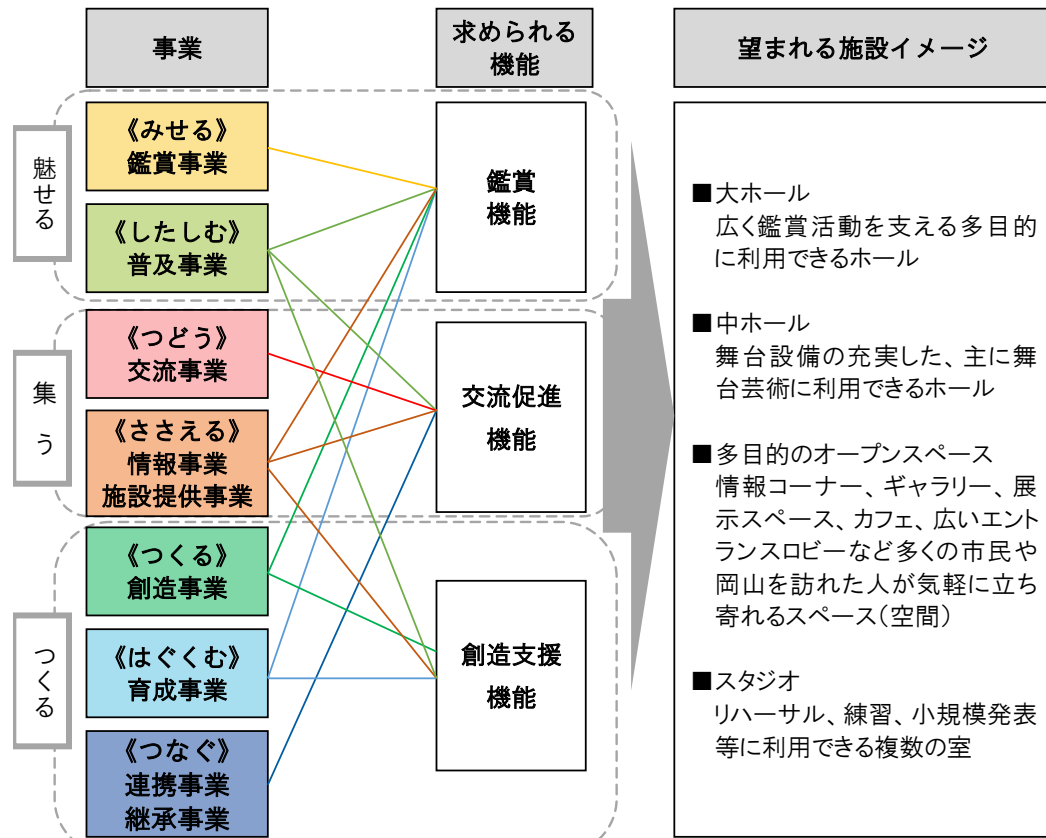
※「平成26年度劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」((公社)全国公立文化施設協会発行)をもとに作成

(1) 施設整備の基本方針(P25)

市が備えている中四国を結ぶ交通網や多数の交通圏内人口などのポテンシャルを十分に活かし、多くの人が集い、岡山市らしい文化事業を新たに創りあげ、将来に向けた人材の育成をも担えるような施設機能を備えるとともに、文化芸術を活かしたまちづくりの中核施設として魅力があふれ、新しいランドマークとなり得る施設を目指します。

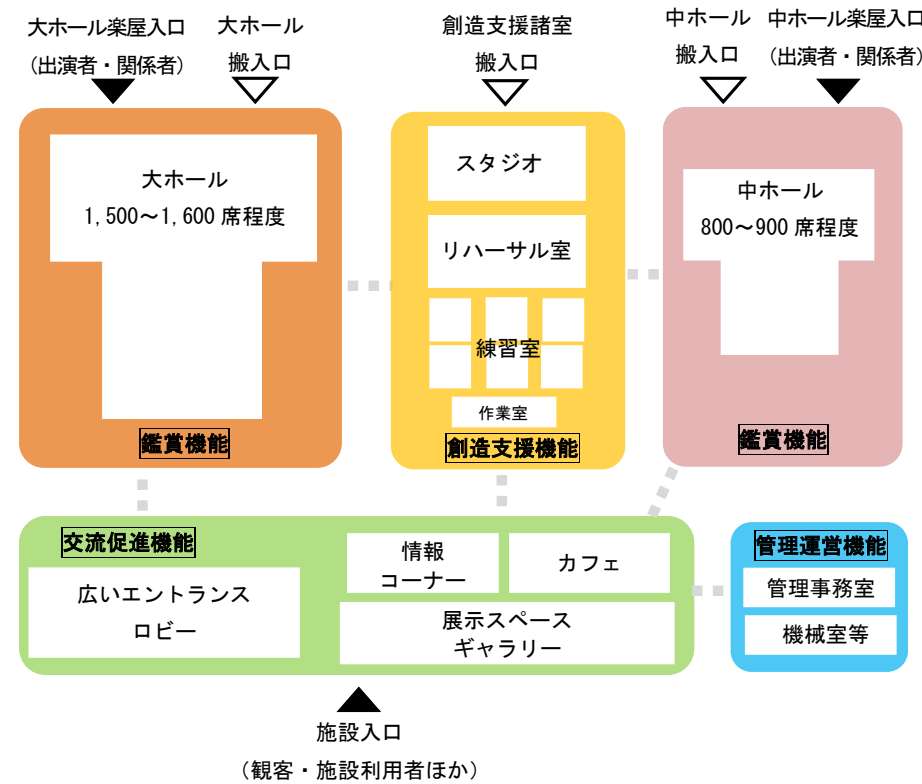
世代を超えた交流活動を行う施設として、誰もが安心して利用できるようユニバーサルデザインにも十分に配慮します。

(2) 施設機能の整理(P25)



(3) 施設規模の想定(P26~27)

【施設構成イメージ図】



(6) 総事業費の検討(P32~33)

① 総事業費の考え方

施設整備費などの建物工事に係る経費の他、外構工事・駐車場整備に係る経費を見込む必要があります。用地取得費、建物撤去費等が必要な場合があります。また、楽器備品や舞台関連備品等を含む備品購入に係る経費、設計費、設計者選定にかかる経費等も想定されます。

② 建設費の考え方

近年整備された類似施設の事例では、1㎡あたりの建設費は約75万円程度となっていますが、新たな文化芸術の拠点となる文化施設としての質を確保し、防災面や安全性を確保しながら、できる限り費用を抑える必要があります。また、財源としては、各種補助金や有利な起債等を活用し、市の財政負担の軽減に努める必要があります。

(4) 施設整備に必要な敷地条件の整理(P28~29)

- 敷地面積
- 法的制限等
- 周辺公共施設駐車場との連携
- アクセス条件
 - 市内からの来館者
 - 市外からの来館者
 - 施設利用者(スタッフ、公演機材搬入車両等)
- 敷地インフラ環境
- まちづくりとの関連性
- 周辺地域への影響

(5) 整備手法の検討(P30~31)

文化政策の実現性、整備期間、財政面など複数の視点から評価します。

- 単独整備
- 再開発事業での整備
- リース方式
- DBO方式
- PFI方式

(1) 整備予定地の決定(P34~35)

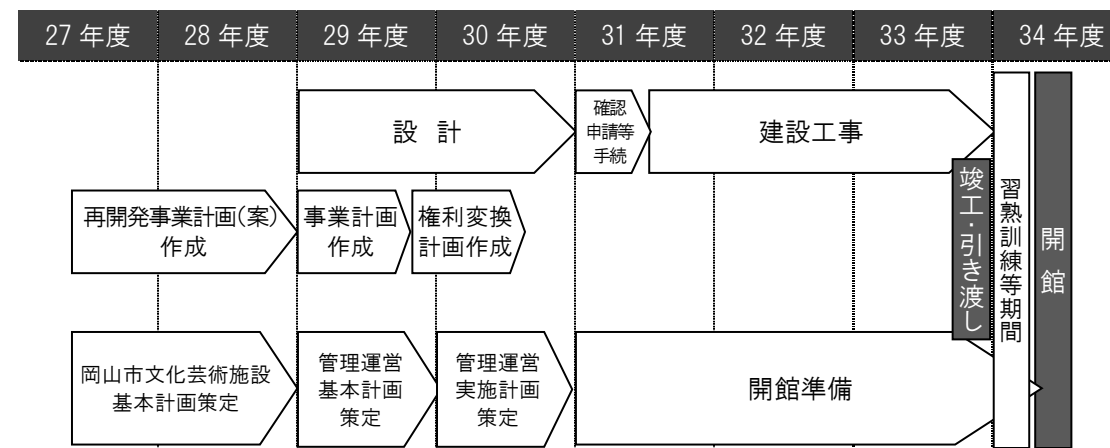
新しい文化芸術施設は、老朽化した岡山市民会館、岡山市立市民文化ホールを一体的に建て替えることとし、天神町の後楽館中学・高校跡地を移転先として、平成24年度から検討してきました。

現市民会館の敷地は、岡山城城郭の中核部の跡地であり、石垣などの遺構が地中に存在する可能性が高く、文化財保護の観点から現地での建て替えは困難である等の理由で他の場所で整備することとなりました。

平成26年度末に「千日前地区」と「表町三丁目地区」の各再開発準備組合から、文化芸術施設についての企画提案を受け、平成27年度当初から「天神町地区」と合わせた3地区での検討に入りました。

3つの候補地について、「新しい文化芸術施設整備に係る候補地検討会」からの意見や議会での議論等を踏まえ、まちづくり、中心市街地の活性化、回遊性の向上などにおいて、岡山市のまちづくりに寄与し、効果があるのかについての検討を行い、『千日前地区市街地再開発事業予定地』を整備地として決定しました。

(2) 整備スケジュール(案)(P36)



※平成28年5月には、条件が達成されたかどうかを勘案し、事業遂行困難と判断した場合は、天神町へ計画変更。

(3) 基本計画策定に向けて検討が必要な課題整理(P36~37)

- 施設規模及び必要諸室数等の検討と整理
- 事業費及び財源の検討
- 整備敷地周辺街区及び環境についての検討
- 管理運営方針等の検討
- 再開発事業としての相乗効果の創出
- 地域の活性化・まちの賑わい創出
- 計画変更の可能性
- 上記の検討等を踏まえた整備スケジュールの確認及び検討